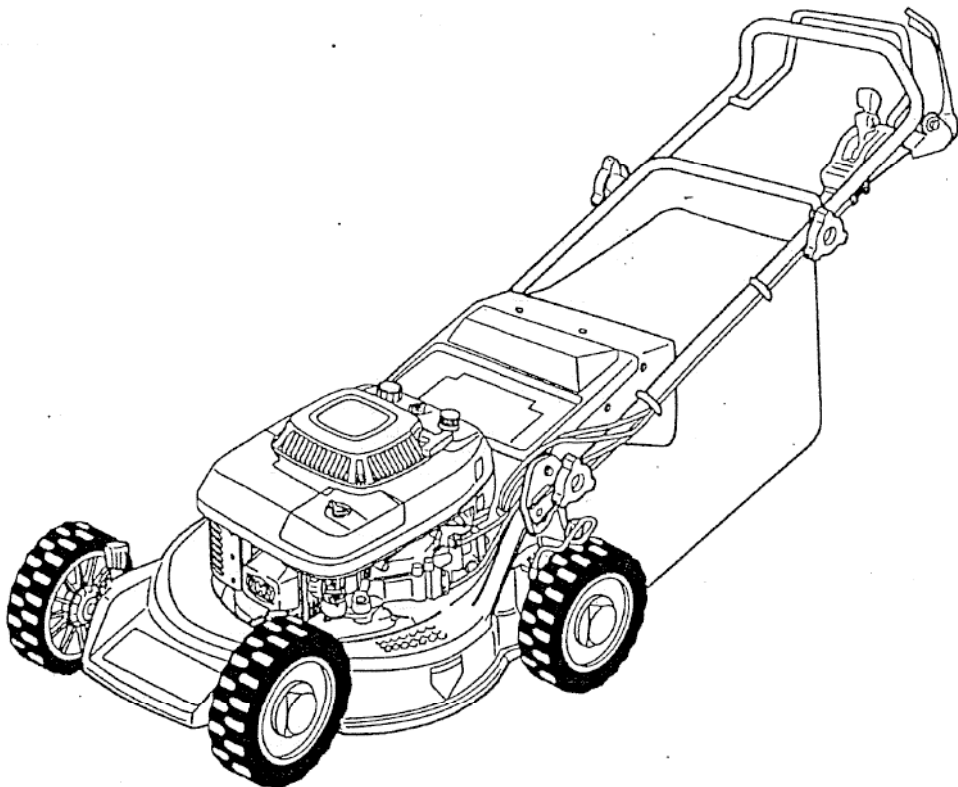


ご使用前に必ずお読みください

バロネスロータリーモア

GM 530

取扱説明書



はじめに

当社ロータリーモアをお買い上げいただき、ありがとうございます。本書はロータリーモアの取り扱いを十分に知っていただく為の説明書です。ご使用前に、必ず、この取扱説明書を熟読のうえ、機械を正しく操作し、安全に作業してください。

目次

	ページ
A. 各部の名称と仕様	2
B. 危険防止の為の注意事項	3
C. 組立	4
D. 操作方法	4
E. 運転前の点検	5
F. エンジンの始動と停止	6
G. 運転	7
H. 輸送と保管	8
I. 長期保管	9
J. 点検整備一覧表	9
K. 点検整備	10
L. 故障対策表	13

安全に関する警告について

本機には、▲印を付けて警告ラベルを貼付しています。
安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

▲ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

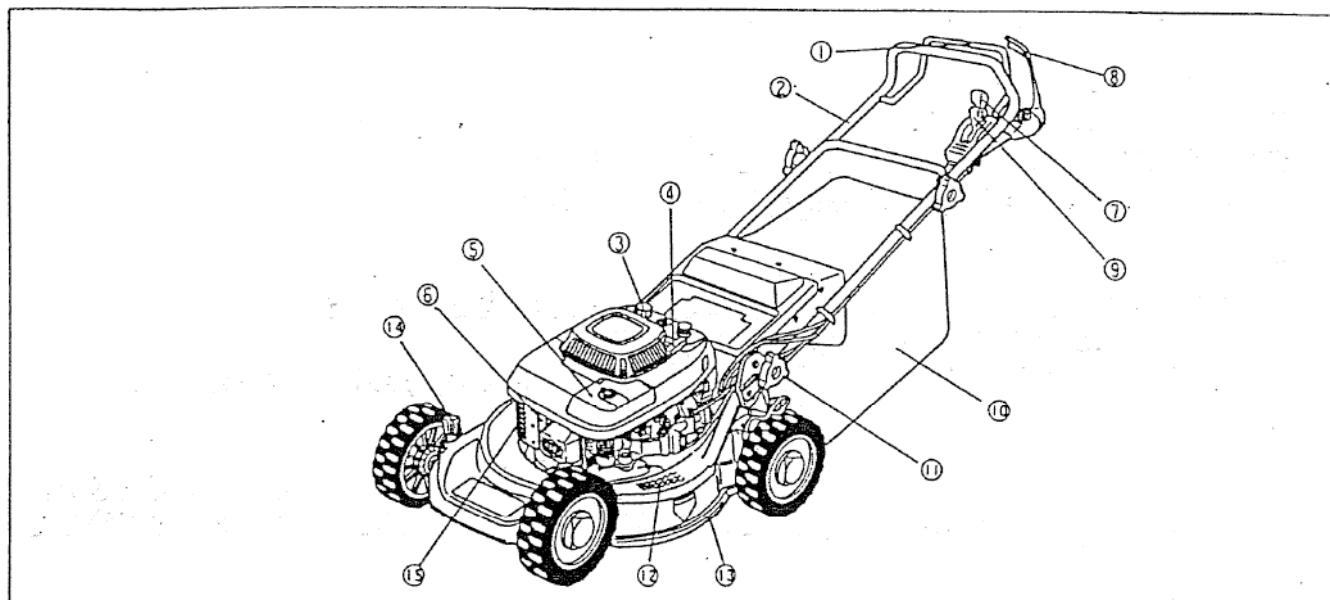
▲ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

▲ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。

A. 各部の名称と仕様



- | | | | |
|--------------|------------|-------------|---------------|
| 1. 走行クラッチレバー | 5. エアクリーナ | 9. スロットルレバー | 13. プロテクタ |
| 2. ハンドル | 6. 点火プラグ | 10. グラスバッグ | 14. ホイール調節レバー |
| 3. 燃料タンクキャップ | 7. チェンジレバー | 11. ノブナット | 15. マフラ |
| 4. リコイルスタータ | 8. ブレードレバー | 12. ステップ | |

型 式	GM530
エンジン	FC150V
エンジン形式	シングルシリンダー・強制空冷・4サイクル・ガソリンエンジン
排気量/内径 x 行程 (cc/mm)	153/65 x 46
連続定格回転数 (rpm)	3000
最大出力 (PS/rpm)	4.5/4000
最大トルク (kg-m/rpm)	0.95/2400
点火方式	電子
エンジンオイル容量 (l)	0.55
燃料タンク容量 (l)	1.1
点火プラグ	NGK BP6ES
外形寸法 (長 x 幅 x 高) (mm)	1690 x 580 x 1050
乾燥重量 (kg)	50
グラスバッグ容量 (l)	75
刈幅 (mm)	530

この仕様は、改良等のため予告なく変更する場合があります。

B. ▲ 危険 危険防止の為の注意事項

服装

1. 長袖、長ズボンで裾じまりのよいもの及び手袋を着用してください。
2. 安全靴等のすべり止めのついたものを履いてください。
3. 騒音から耳を守る為、適正な保護具を使用してください。

環境

1. 暑熱寒冷のときは、長時間の作業は避けて、十分な休憩をとってください。
2. 雨天時の作業は足元がすべりやすいので避けてください。
3. 屋内又は鉱内など、換気の悪い場所で作業しないでください。排気ガスは有毒です。

火気厳禁

1. ガソリンを使用しますので、ロータリーモアの近くでタバコやたき火をしないでください。
2. エンジン運転中又はエンジンが熱いときに、燃料タンクキャップを外したり燃料を補給したりしないでください。
3. 補給中、燃料がこぼれたら、きれいにふきとってください。
4. 始動は燃料のある場所や、燃料補給の場所から十分離れて行ってください。
5. 燃えやすいものをマフラから出る排気に近い近づけないでください。
6. 燃料は適切な容器に貯蔵し、涼しい場所に保管してください。

使用前の注意

1. 作業現場内を点検し、石や空カンなどの異物を取り除いてください。
2. 子供や、説明を受けていない人には操作させないでください。
3. カバー、ガードなどの安全保護具を正しく取り付けてください。

使用中の注意

1. 作業現場内に人（特に子供）や動物を入れないでください。
2. しっかりと両手でハンドルを握り、歩いて運転してください。絶対に走りながら運転してはいけません。
3. ブレードは鋭く危険です。絶対に手足をブレードに近づけないでください。
4. ブレードの回転中に本機を傾けないでください。ブレードがむきだしになり大変危険です。
5. 石などの固いものにブレードが当たった場合、あるいは異常振動をした場合には、直ちにエンジンを停止して、点検してください。
6. ロータリーモアを移動するために持ち上げる際には、エンジンを停止してください。
7. 砂利道や歩道を横切る場合には、必ずブレードを停止してください。

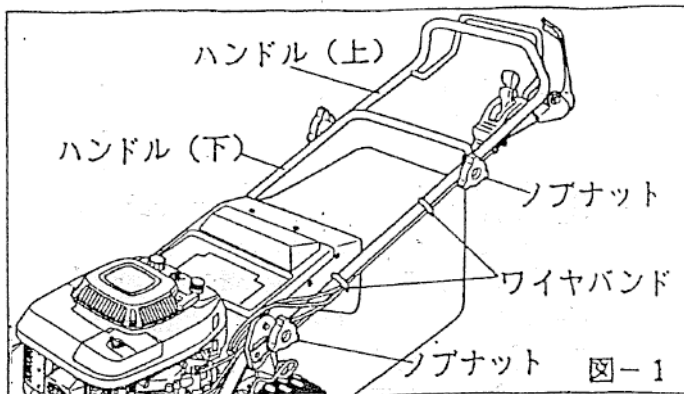
使用後の注意

1. 点検、調整、修理、掃除などを行う場合には、必ずエンジンを停止して、点火プラグキャップを取り外してください。
2. ロータリーモアを放置する場合には、必ず平地を選んでください。傾斜地には放置しないでください。

C. 組立

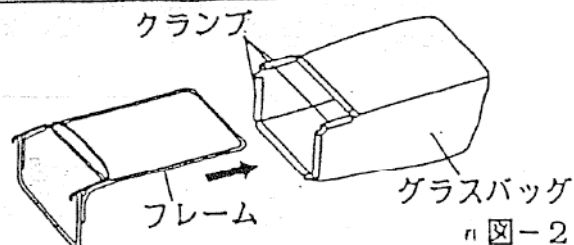
1. ハンドルの取付 (図-1)

- (1) ノブナットをはずし、ハンドル (下) をノッチにはめます。
- (2) ハンドル (上) をハンドル (下) にはめ、ノブナットでしっかりと締め付けてください。
- (3) ワイヤを2コのワイヤバンドでハンドルに固定します。



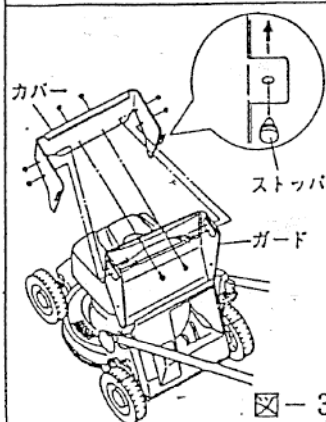
2. グラスバッグの組立 (図-2)

- (1) グラスバッグにフレームを奥まで入れ、クランプをフレームに引掛けてください。
- (2) グラスバッグを本体のハウジングへ取り付けます。



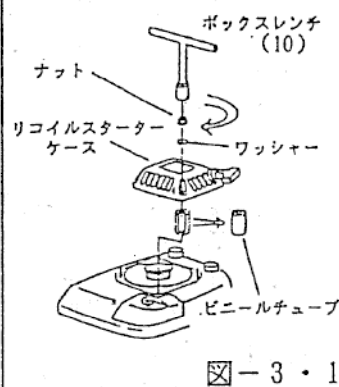
3. カバー (マルチ刈り用) の取付 (図-3)

- (1) カバー両側の穴にそれぞれストッパーを取付けます。
- (2) ガードを上方に引き起し、カバーを6本のボルトでしっかりと取付けます。
- (3) ガードを静かに降ろしてください。



4. リコイルスターターケースの取付 (図-3・1)

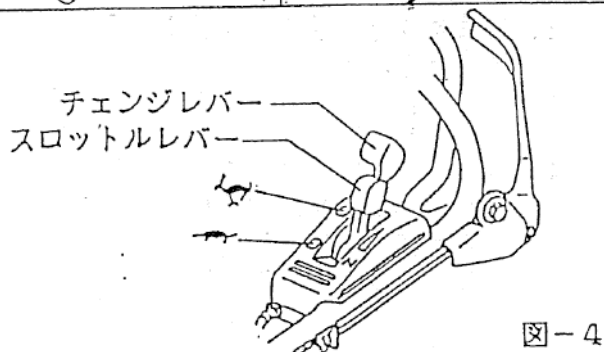
梱包都合により、リコイルスターターケースを外しています。図のようにビニールチューブを取外し取付けて下さい。



D. 操作方法

1. スロットルレバー (図-4)

"N" エンジン始動位置
 "STOP" エンジン停止位置
 "max. ————" . エンジン回転調節位置

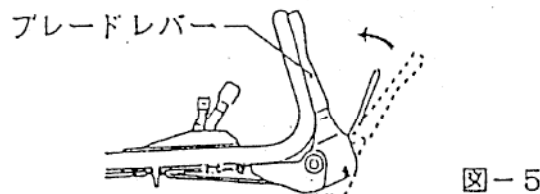


2. ブレードレバー

(図-5)

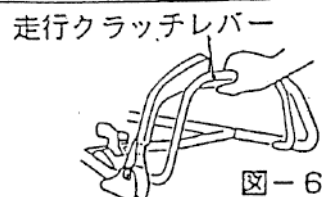
ブレードレバーを前方に倒すとブレードが回転し、レバーを離すと停止します。

ブレードレバーのON-OFF繰返し操作は連続して行わないでください。



3. 走行クラッチレバー (図-6)

走行クラッチレバーを前方へ倒すと前方に走行し、レバーを離すと走行停止となります。



4. チェンジレバー (図-4)

前方2段変速ができます。

走行中、チェンジレバーは操作しないでください。

走行クラッチレバー	
変速段数	走行速度
(低速)	0.8 (m/秒)
(高速)	1.2 (m/秒)

E. 運転前の点検

1. エンジンオイルの点検 (図-8、表-1)
エンジンオイルはAPI分類SC級以上のオイルを使用し、気温によって表-1のように使い分けてください。
オイルゲージでオイルの量を計り、適量範囲にオイルが付着していなければ、給油してください。

工場出荷時にはオイルは入っていません。

2. 燃料補給 (図-8)
燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用します。燃料タンクキャップを開け、ガソリンをこぼさないように給油し、燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。

3. ハンドル高さの調節 (図-9)

ハンドル高さの調節は無段階の調節ができます。

- (1) 左右ハンドルブラケットの固定ボルトを均等に緩めます。
- (2) 操作しやすい高さにハンドルを動かし、最良の位置にセットします。
- (3) 固定ボルトをしっかりと締付けてください。

4. グラスバッグの点検 (図-10)

- (1) グラスバッグが適切に取り付けられているか点検してください。
- (2) グラスバッグが摩耗や破損していないことを点検してください。摩耗や破損したグラスバッグは当社指定の新しい部品と交換してください。

▲ 注意 グラスバッグは必ず定められた位置に取付けておいてください。

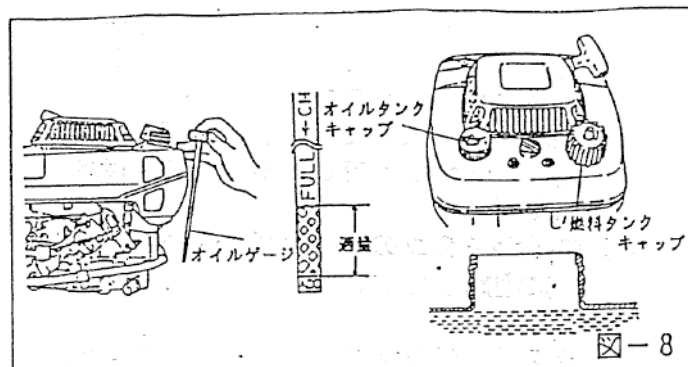


表-1 -20°C -10°C 0°C 10°C 20°C 30°C 40°C

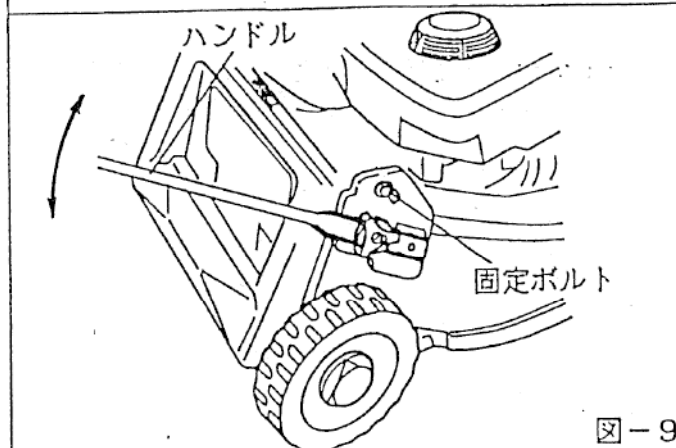
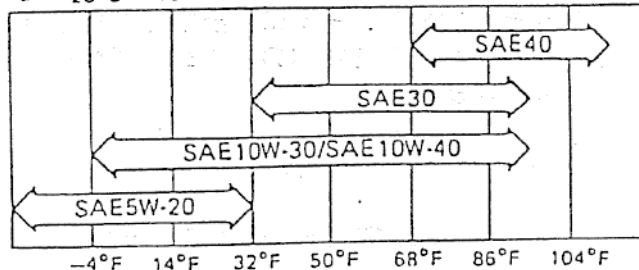


図-9

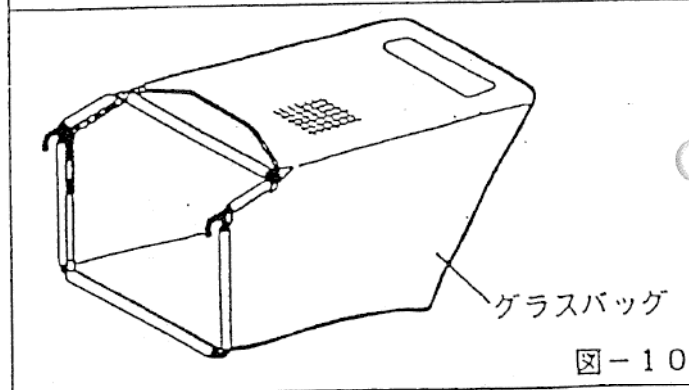
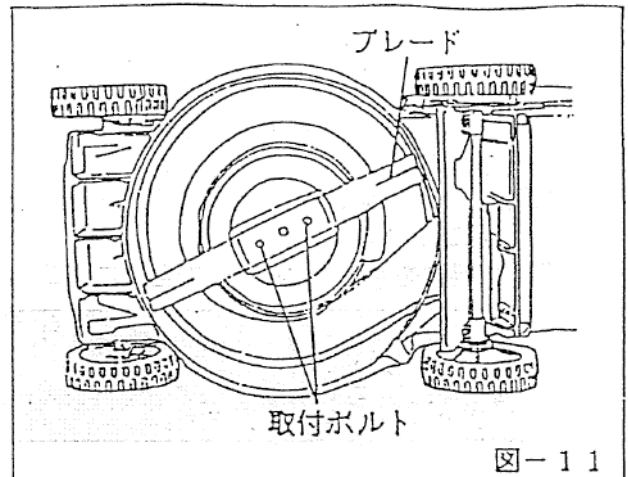


図-10

5. ブレードの点検 (図-11)

- (1) 必ず、ブレード及び取付ボルトが摩耗や破損していないか、点検してください。摩耗や破損したブレードや取付ボルトは当社指定の新しい部品と交換してください。
- (2) ブレードの取付ボルトが指定のトルクで締まっているか点検してください。
指定トルク : 3.0~4.0 kg-m

▲ 注意 安全の為、ブレードの取付け
取外しは手袋を着用してください。

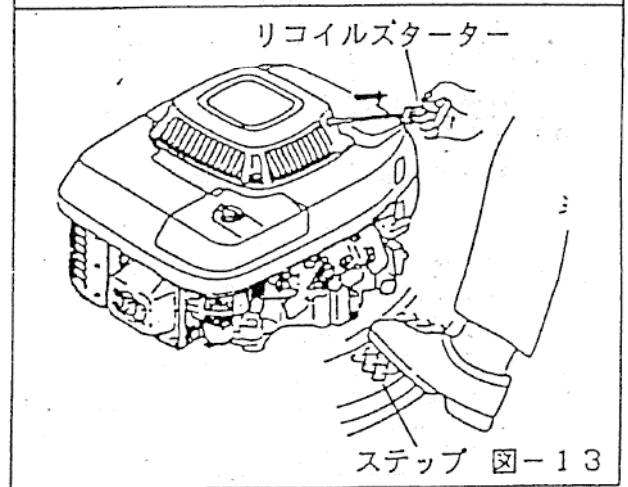
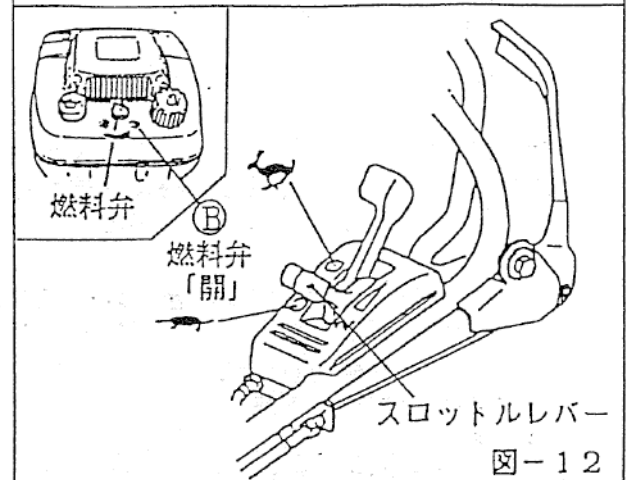


- ## 6. ボルト、ナット等の点検
- ボルト、ナット等の”ゆるみ”、”脱落”がないか点検してください。

7. エンジンの始動と停止

1. 始動 (図-12、13)

- (1) 燃料弁(つまみ)をⒷの位置に廻してください。
- (2) スロットルレバーを「M」の位置にしてください。
- (3) 足をハウジングのステップに置いてください。
- (4) リコイルスタータを圧縮のあるところまで引き、一旦戻してから勢よく引張ってください。
- (5) エンジンが暖まったらスロットルレバーを「MAX」の高速位置にし、ブレードレバーを前方へ倒し、ブレードを回転させます。
- (6) チェンジレバーを「2」又は「1」に入れ、走行クラッチレバーを前方に倒すと前進します。



- ・ブレードレバーを倒した状態で、スロットルレバーを「MAX」の低速位置にすると草を刈ることはできません。
- ・始動直後はエンジンの各部に潤滑油が十分にまわっていないので、エンジンを暖めた後、ゆっくりと回転を上げてください。

2. 停止 (図-14)

- (1) 走行クラッチレバーとブレードレバーを離します。
- (2) スロットルレバーを「STOP」の位置にします。
- (3) 燃料弁をAの位置に廻して全閉にしてください。

エンジンは、スロットルレバーが「」の位置で停止させないでください。再始動が困難になります。

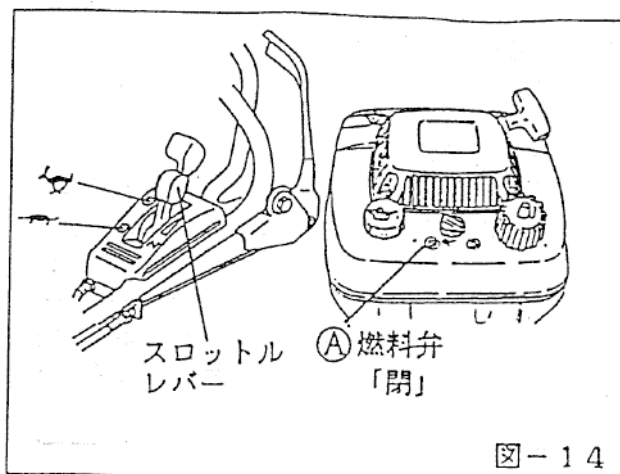


図-14

G. ▲注意 運転

- (1) 指定のガード、プレート、グラスバグ、その他の安全保護具を取り付けて使用してください。
- (2) 凹凸な場所での使用は、特に注意が必要です。ローンモアが傾き、ブレードがむきだしになり、石や草が投げ出されることがあります。前後の車輪はしっかりと地面に接地させることに心掛けて使用してください。
- (3) ローンモアを放置する場合には必ずエンジンを停止してください。
- (4) 使用中、石などの固い物にブレードが当たった場合、あるいは異常振動をした場合には、直ちにエンジンを停止し、点検してください。
- (5) 斜面での使用は下記に注意してください。
 1. 斜面に対して横方向に刈ってください。上下方向には刈らないでください。
 2. 斜面での方向転換は慎重に行ってください。
 3. 急斜面では、使用しないでください。

1. ▲注意 刈高さ調節 (図-15、16)

- (1) 必ず、ブレードを停止してください。
- (2) 前後の車輪のホイール調節レバーを車輪方向へ押し、ノッチからはずして、刈高さを調節します。前後の車輪のホイール調節レバーは元の位置のノッチに入れてください。
刈高さは、16mm、25mm、35mm、46mm、57mm、67mm、76mmの7段階が可能です。

前方に向って左側の前車輪の刈高さ調節時にマフラに触れないでください。

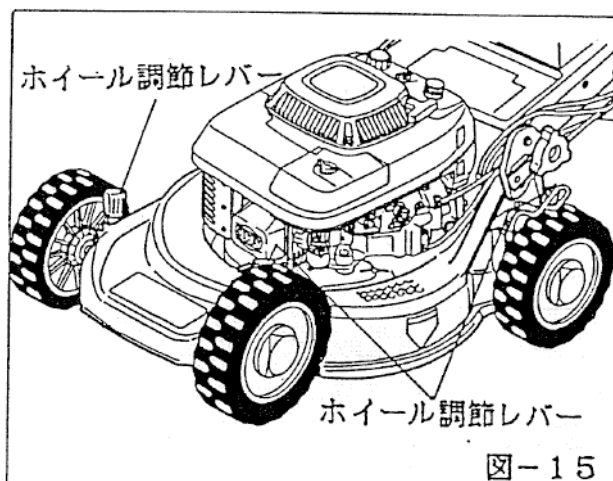


図-15

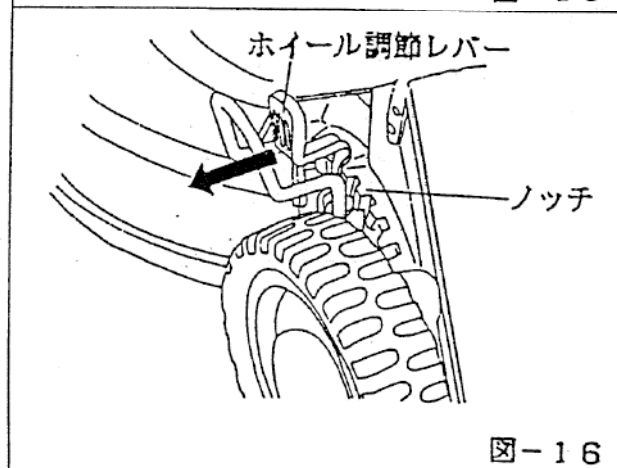


図-16

2. グラスバッグの取付け、取外し (図-17)

1. 取外し
 - (1) 必ずブレードを停止してください。
 - (2) ガードを上げ、グラスバッグを上げながら後方へ取り外します。
2. 取付け
 - (1) ガードを開け、グラスバッグの枠の先端をハウジングに取り付けてください。
 - (2) グラスバッグが正しい位置にあることを確認してください。

グラスバッグの目詰まりは収集性能を低下させ、濡ったグラスバッグは目詰まりが早くなります。

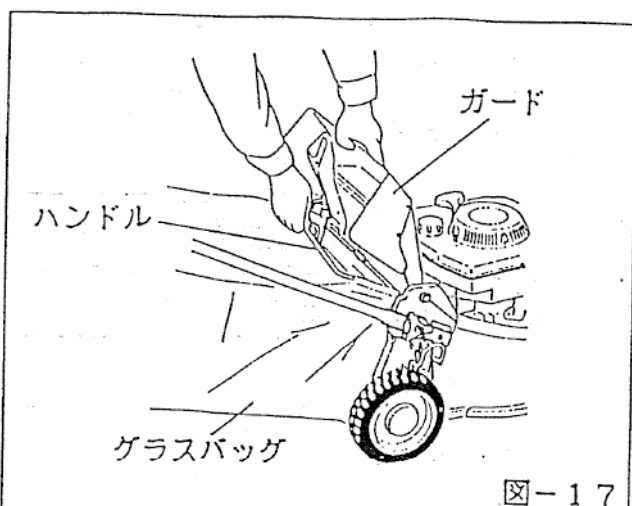


図-17

H. 輸送／保管 (図-18)

- (1) グラスバッグを取り外してください。
- (2) ハンドルのノブナットをゆるめて、ハンドルを折りたたみます。

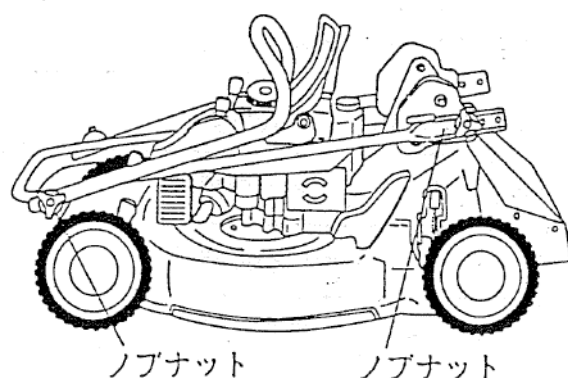


図-18

I. 長期保管 (図-19、図-20)

- (1) エンジンを30日以上使用しないときには、燃料変質による始動不良又は運転不調にならないよう、気化器内燃料を排出すると共に燃料タンクの燃料を抜いてください。
そして、スロットルレバーを「STOP」の位置にします。
- (2) 草やほこりを取り除き、金属部分を油のしみた布でふいてください。
- (3) 点火プラグをはずして、シリンダ内にエンジンオイルを少量(10cc)注入してください。
リコイルスタータを2、3回引いて、点火プラグを取り付け、圧縮のあるところまでリコイルスタータを引いてください。
- (4) エンジンオイルを交換してください。
- (5) 破損した部品は、当社指定の新しい部品と交換してください。
- (6) エンジンが冷えてから、モアにカバーをし、乾燥したほこりのない、水平なところに保管してください。

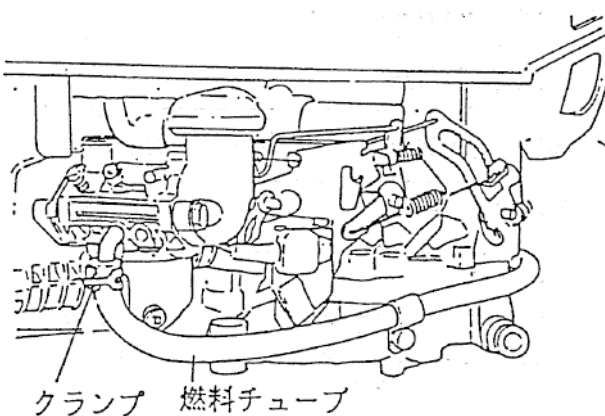


図-19

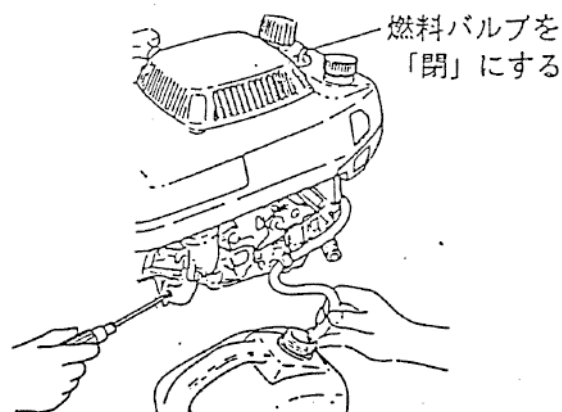


図-20

J・▲注意 点検整備一覧表

運 転 時 間		使用毎	25時間	50時間	100時間
エンジンオイル	レベル点検	○			
	交換			○※	
エアクリーナ点検及び清掃			○		
ボルト、ナット、ネジの点検調節		○			
燃料点検及び補給		○			
点火プラグの清掃及び再調節		○			
ブレード及びブレード取付ボルトの点検		○			
グラスバグの点検及び清掃		○			
スロットル用ワイヤの調節					○
走行クラッチ用ワイヤの調節				○	
ブレード用ワイヤの調節点検				○	
ブレード・ストップの点検				○※※	
走行チェンジ用ワイヤの点検				○	
バルブ間隔の点検及び再調節					○※※
燃焼室の清掃					○※※
燃料タンクと燃料ストレーナの清掃					○※※
燃料ホースの点検					○

※新品エンジンの使用直後はオイルの汚損が早いため、初回のみ25時間で交換してください。
 ※※この点検項目は整備技術及び特殊工具が必要ですので、販売店へ依頼してください。

K. 点検整備

1. エンジンオイルの交換 (図-21, 22)
エンジンオイルはエンジンが暖かいうちに抜き取ります。

- (1) オイルキャップを外します。
- (2) 燃料弁 (つまみ) を廻して「閉」の位置にします。
- (3) モーター本体を90°傾け、ドレンプラグから排出します。
- (4) オイルゲージの上限まで新しいオイルを入れます。

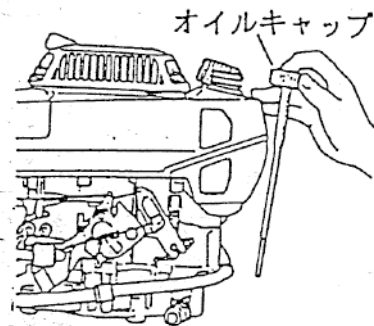


図-21

2. エアクリーナの点検 (図-23)

スポンジエレメントは洗剤で洗い、きれいな水で仕上げ完全に乾かしてください。その後新しいエンジンオイルに浸し固く絞ってください。(目安: 25時間毎)
紙エレメントは軽くたたいてチリを落としてください。ひどい汚れの時は洗剤で洗い、きれいな水で仕上げ完全に乾かしてください。(目安: 100時間毎)
又、紙エレメントは1年か又は、300時間使用毎に新しいものと交換してください。

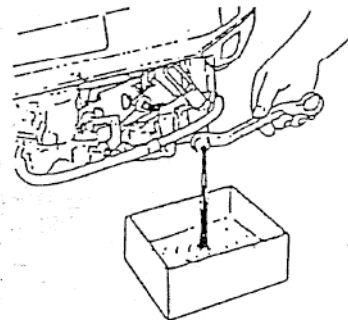


図-22

3. 点火プラグ (図-24)

点火プラグは NGK BP6ESを使用します。

- (1) キャップをはずし、点火プラグを取り外してください。
- (2) 点火プラグにひどくカーボンが付着している、又は絶縁体にひび割れがあったり欠けている場合、新しい点火プラグと交換してください。
- (3) 電極に付着のカーボンを取り除き紙ヤスリでみがき、電極すき間を0.7mmに調整します。

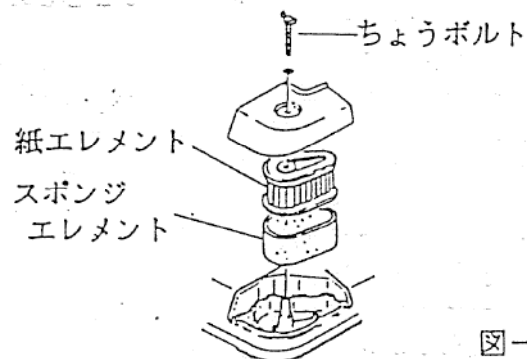


図-23

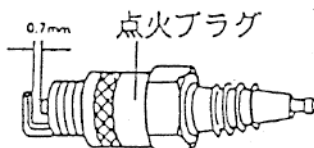


図-24

4. ▲注意 ブレードの交換と研磨

(図-25, 26)

- (1) エンジンのキャブレタを上にして90°傾けて、ブレードの取付ボルトを外します。
- (2) ブレード、取付ボルトが、「摩耗」、「破損」、「曲がり」があるときには当社指定の新しい部品と交換してください。
- (3) ブレードは鋭い刃先でなければ芝はきれいに刈れません。すり減った刃先はヤスリで再研磨してください。

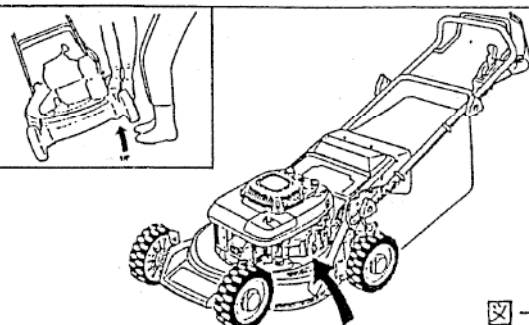


図-25

研磨したブレードは、バランスチェックが必要です。中央の穴にドライバなど通してブレードが水平になるように研磨してバランスを取ってください。

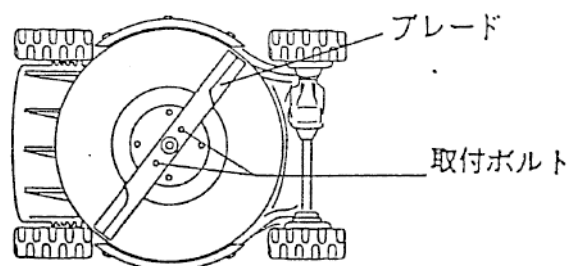


図-26

- (4) エンジンの出力軸のまわりのゴミや草を取り除いてください。
- (5) ブレードを取り付け、取付ボルトを指定トルクで締め付けてください。

指定トルク : 3.0~4.0 kg-m

ブレードの交換は手袋を着用して行ってください。
ブレードを交換する前にエンジンを停止し、点火プラグキャップを外してください。

5. スロットルワイヤの調節

(図-27、28、29)

- (1) スロットルレバーを「N」の位置にし、コントロールレバーが右側に遊びのない状態でチョークが作動するようにします。そして、調整穴(A)とコントロールレバー穴(B)がスロットルレバーを高速位置にしたとき、一致することを確認してください。
- (2) 調節が必要な場合、スロットルワイヤのロックナットをゆるめてアジャスタを左右に回して調節します。そして、ロックナットを締め付けてください。
- (3) エンジンを始動し、スロットルレバーを「STOP」の位置にし、エンジンが停止することを確認してください。もし、停止しないならば、もう一度やり直してください。

6. ▲ 注意 ブレードレバーの調節

(図-30、31)

- (1) 図-30のようにブレードレバーの遊びを1~3mmに調節します。
- (2) 調節が必要な場合、ブレード用ワイヤをゆるめ、アジャスタを左右に回し調節します。そしてロックナットを締め付けてください。
- (3) エンジンを始動した状態でブレードレバーを離したら、ブレードが停止することを確認してください。

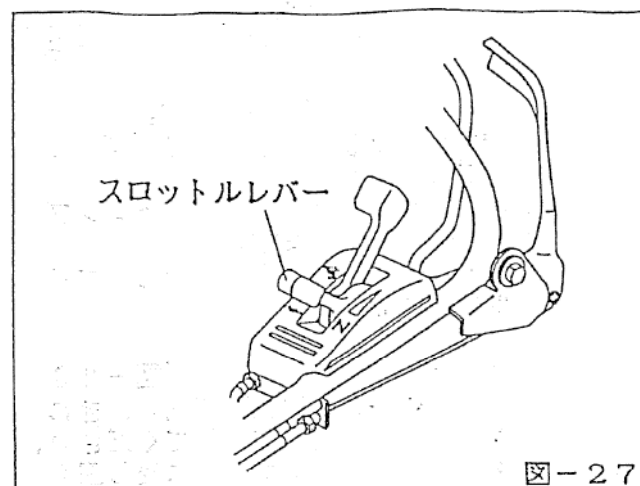


図-27

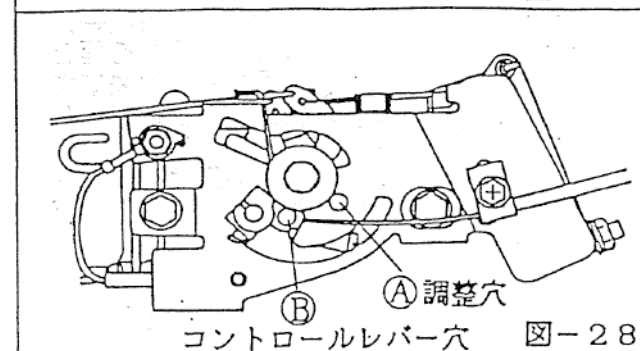


図-28

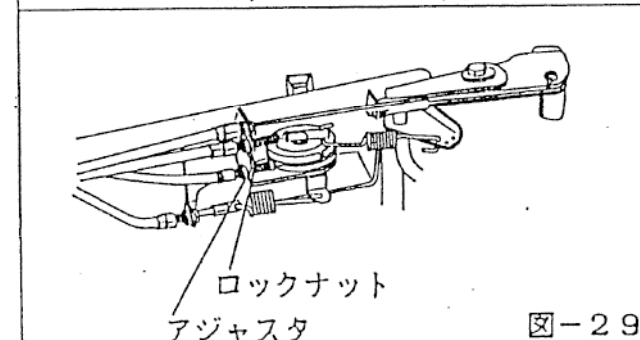


図-29

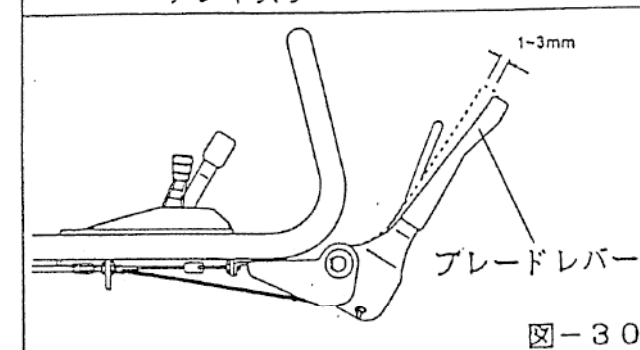


図-30

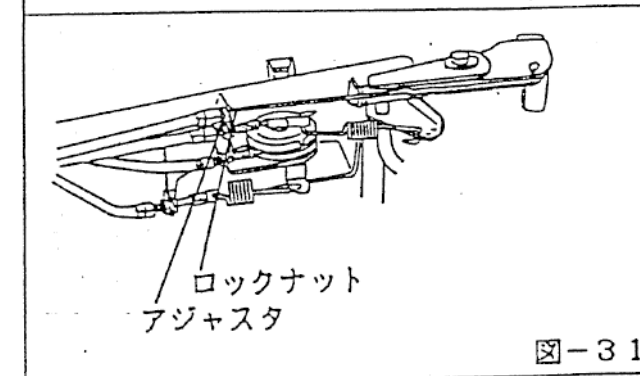


図-31

7. 走行クラッチレバーの調節

(図-32、33)

- (1) 図-32のように走行クラッチレバーの遊びを1~5mmに調節します。
- (2) 調節が必要な場合、走行クラッチ用ワイヤのロックナットをゆるめ、アジャスタを左右に回して調節します。そしてロックナットを締め付けてください。
- (3) 走行クラッチレバーを離して、後方にローンモアが移動できることを確認してください。

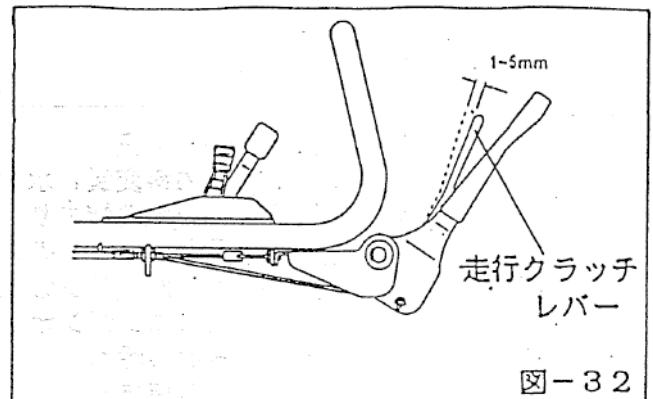


図-32

8. チェンジレバーの調節 (図-34、35)

- (1) 図-34のようにチェンジレバーの遊びを1~3mmに調節します。
- (2) 調節が必要な場合、チェンジ用ワイヤのロックナットをゆるめ、アジャスタを左右に回して調節します。そしてロックナットを締め付けてください。
- (3) エンジンを開始させ、チェンジレバーを操作し、走行速度が2段に切換わることを確認してください。

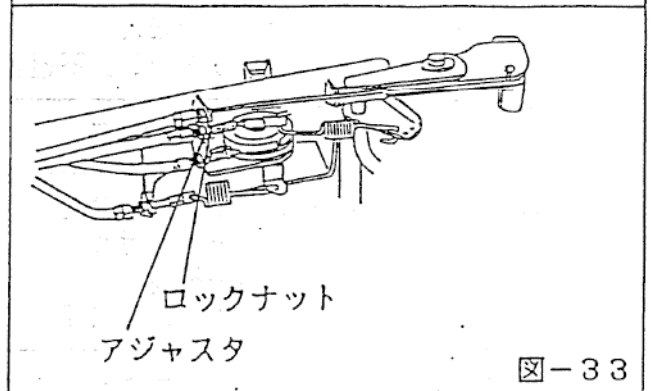


図-33

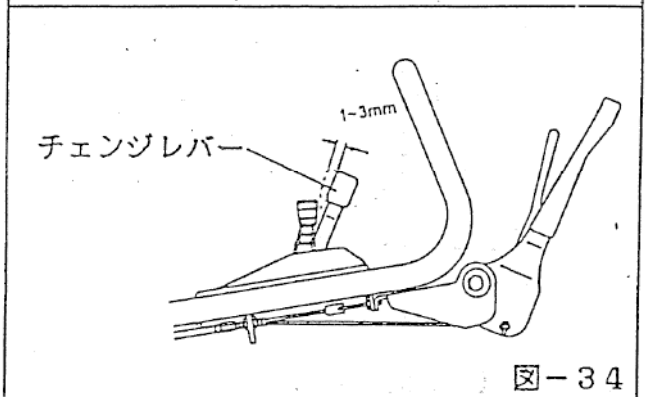


図-34

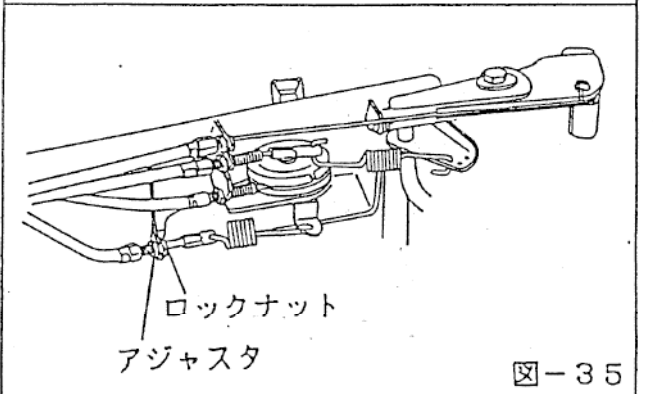


図-35

故障対策表

故 障	原 因	対 策
始 動 困 難	チョーク作動不良 燃料不足、燃料変質、水の混入 燃料ストレーナの詰まり 点火システムユニットの欠陥 シリンダ内にガソリンの流れ込み過ぎ シリンダ内にエンジンオイルの流れ込み エアクリーナの汚れ キャブレタの詰まり ガスケットの漏れ バルブクリアランス不適当	スロットルケーブル調整 点検、清掃 清掃 交換 キャブレタ調整 スパークプラグ清掃 清掃 清掃 交換 調整
出 力 不 足	スロットル開度不足 バルブクリアランス不適当 シリンダピストン摩耗 エアクリーナの汚れ ガバナ調整不良 スパークプラグの欠陥	スロットルケーブル調整 調整 交換 清掃、又は交換 調整 清掃、調整、又は交換
高速不安定	点火システムユニットの欠陥 キャブレタの欠陥 エアクリーナの汚れ	交換 調整、又は交換 清掃、又は交換
低速不安定	ガバナ調整不良 デコンプ作動不良 B. B. C作動不良 (KXタイプ)	調整 調整、又は交換 調整、又は交換
停 止 不 良	スイッチターミナル汚れ、変形 スロットルコントロールレバー作動不良	清掃、又は交換 調整、又は交換
エンジン過熱	エンジンオイル不足 リコイル部又は冷却フィンのゴミ詰まり	補充 清掃

コントロールレバーを”H”ポジションにしてリコイルスターターを連続して引くと、ガソリンの吸い込みすぎが発生する恐れがある。エンジンが熱い時には、コントロールレバーを”MAX”位置で始動させること。

モアを傾ける時には、燃料弁を閉じて、オイル交換の時以外は、キャブレタ側が上になるように傾けてください。逆に倒して放置すると、エンジンオイルがキャブレタに流れ込み始動出来なくなる恐れがあります。



株 式 会 社

共 栄 社

愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (05338) 4-1221(代)

FAX (05338) 4-1220